

宝塚市協働のまちづくり促進委員会
協働のマニュアル策定部会(第3回) 会議録

開催日時	平成26年11月19日(水) 18:30~21:00
開催場所	宝塚市市役所 特別会議室
次 第	1 開会 2 第2回協働のマニュアル策定部会議事録について 3 議事 マニュアルの構成等について 4 宝塚市協働の指針職員研修会について 5 閉会
出席委員	久委員長、飯室委員、熊澤委員、久米委員、古泉委員、田中委員
開催形態	公開(傍聴人0)

1 開会

第3回協働のマニュアル策定部会の開会。

事務局から、本日の委員出席者数は6人、欠席者5人であり、過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していることを報告した。

2 第2回協働のマニュアル策定部会議事録について

事務局がホームページに掲載する議事録(案)を提示し、ホームページに掲載することを委員が了承した。

3 議事 マニュアルの構成等について

(1) 事務局がアンケートに関する資料の説明を行った。

(2) 飯室委員が同氏作成のアンケートに関する資料の説明を行った。

(3) 職員は市民のために仕事をしているので、方向性も大きく変わらず、マニュアルもまとめやすいが、市民は人によって方向性が大きく違うので、何を示せば効果的なのか見極めが難しい。

(4) 市民の側からすれば、プラスかマイナスで判断しがちだが、行政と同じテーブルに着いて協働していくことがまちづくりにつながっているという考えを広めていく必要がある。市民にも行政にも変化を求めていく姿勢が大切だと思うが、現状は暗中模索といったところだ。

(5) 【部会長意見】アンケート結果を見ても、職員はまだまだ従来型の発想だと思う。自分たちの仕事を出すのが協働で、自分たちの仕事は自分たちが責任を取らなければならないと考えている。

(6) 行政マン独特の考えだ。

(7) 失敗してもOKだという発想に立てないものか。

(8) 協働は全市的に進めるものか、モデル地区を定めて進めるべきものか。

(9) それは委員会の全体会で議論すべきものだと思う。マニュアル部会ではより具体的

にマニュアル策定の議論を進めるべきだと思うが、アンケートでは研修会でも聴かれるような職員の悩みが表れている。職員に動いてもらわなければ協働は進まないの、今わかっていない職員にもなるほどと思ってもらえるマニュアルにしなければならない。

- (10) 【部会長意見】全市的にか、モデル地区かという意見があったが、それと関係することだが、地域は様々だから、事業を画一的に進めるべきではないと思う。だからこそ、そんな進め方をしてはいけないというマニュアルが必要なのだと思う。
私が地域に入っていくときは、3か月ほど発言しないことにしている。地域の話をよく聴いて、場の雰囲気をつかんでから自分のポジションを決めないと、うまくいかない。具体的な事例も示しながら、そのようなことを解説していくのがこのマニュアルの役割だと思う。
- (11) マニュアルと言えば、一般的にはこうしなければならないとなるが、協働のマニュアルは少し違うと思う。行動規範と言えば指針になるのだが、協働のマニュアルは、実例を示してこうすればうまく協働できるかもしれないとか、あとは地域の実情に合わせてとかになるのではないか。
- (12) 職員は、部署によって普段から市民と接するところと、そうでないところと、全く違う。どんな市民組織があって、どこにどんな人がいるのか気になるところだと思う。市民協働推進課の窓口で相談に乗れるような仕組みづくりが必要ではないか。
- (13) 内容が良い悪いや、職員が良い悪いではなく、アンケート結果と受け止め、マニュアルをどうするか議論すべきではないか。
- (14) 【部会長意見】まずはアンケートについて、意見とか、疑問はないか。無ければ、次の議論に移りたいと思うが、職員が何を思い、何を考えているか、全てを受け止める必要もないし、全てに応えることもできないが、どんな人がどんな思いを持っているのか、一定の理解ができたと思う。それも念頭に置きながら、話を次の次元に移りたいと思う。
- (15) 飯室委員が同氏作成のマニュアルの構成等に関する資料の説明を行った。
- (16) 2ページと5ページで編を分けているが、どのような意図で分けられたのか。
- (17) 新たな課題は協働と気づきやすいが、既存の事業は協働していることに気づきにくい。既存の事業については見直しもしてほしいので、別にした。
- (18) 内容は全く別のものになるのか。
- (19) 重複することが多いと思うが、別にしたほうがよいと思った。
- (20) 【部会長意見】既存の事業であっても、少し見直せば協働がより進むことが期待できる。
- (21) 既存事業の制度の見直しも必要である。
- (22) 【部会長意見】飯室委員から案が提出されているが、これをベースに進めることでよいか。
- (23) その方向でよいと思う。
- (24) 項目を挙げているだけなので、内容をこれから加えていかなければならない。

- (25) 協働でないと判断されれば、マニュアルが活用されないのでは、その判断が大切になってくる。気づきとつながりの部分を強調すれば、協働かどうかが見えてくる。
- (26) 2つ質問があり、1つは防災活動についてですが、これはどこでも地元と行政と協働で実施されていると思うが、お祭りについては、地元だけで行われたり、行政と協働で行われたり、地域によって様々である。マニュアルでどう整理するのか。
- (27) 【部会長意見】お祭りのマニュアルではなく、協働のマニュアルなので、それぞれの活動内容を見直してもらって、協働に当たるのかどうか、当たるのであれば指針に沿ってできているのか確認してもらえらるるよう、マニュアルを読ませる工夫が大切だと議論している。
- (28) 時代が変わってきて、お祭りでも協働が必要になってきていると思う。
- (29) 明治のころは宝塚に36村あって、戦前は火葬場から道路普請まで、村で全てのことが行われていた。戦後に行政が肥大して、特にニュータウンは最初から、村がやっていたことを行政がやるようになったので、住民に経験がない。旧村とニュータウンでは協働の風土が違う。
- (30) 【部会長意見】公、共、私の3つがあり、共の大部分は村が担ってきた。しかし、ニュータウンには公、私しかなく、共の空間がないので、みんなで管理するような習慣がない。
- (31) 末広公園で行われている祭りは、市がやっているのか。
- (32) 【事務局】サマーフェスタは、実行委員会形式で行っている。
- (33) 協働でやっているのか。
- (34) 【事務局】宝塚祭りとして競馬場で実施していたものを、行革の一環で廃止したが、青年会議所が中心となり、夏祭りがどうにかできないかということで始まった。今は協働で実施している。
- (35) いろんなイベントが協働で行われているようだが、主催、共催、後援と協働における役割がきちんと整理されているのか。整理されていないまま、補助金や助成金が出されてはいないか。事業が終わったら、評価をしてサイクルを回しているか。
- (36) 【部会長意見】フェスティバルを協働とするメリットについてですが、他市の事例で、業者に全て頼むより市民と協働した方が費用が半分で済んだものがある。商工会議所が誰に頼めば動いてもらえるのか、動いてくれる市民の顔が見えてきたから協働ができた。
- (37) 道路の改修の話だが、中津浜線改修協議会を自治会でつくり、県会議員を通じて県に要望に行ったが、協力を約束した県会議員が県側の席で会議に臨んでいた。地元側に座るべき県会議員が県側の席だったので、裏切られた気分だった。そのときに協働を意識していれば、県会議員には頼みに行かなかった。
- (38) 【部会長意見】他市の事例だが、最近、ある地区のまちづくりに関わるようになったのだが、河川の堤防に遊歩道をつくりたいという話があがり、府の管轄なので府議会議員を通して府に話をすればよいという人がいたが、私は、府の土木事務所の人を呼んで実現の可能性を探る懇談会を開催して、知恵を借りることをお勧めした。最近

はそのようにしたほうが話が進みやすく、担当する職員にしても、上から話がおりてくるよりも、自分たちが関わってつくりあげていくほうが気持ちよく仕事ができる。それがまさしく協働のもうひとつのメリットだと思う。

- (39) すぐに議員に頼もうとする人が多いが、私の経験からでもうまくいかないと思うことが多い。担当部署の人と本音で話をして協働で進める方がよい。
- (40) 昔から市議員に言えば何とかなんと、市議会議員が地元のために動いてくれた。
- (41) 自治会も候補として支援して。
- (42) それも今は時代が違うように思う。
- (43) 【部会長意見】 そのあたりもマニュアルに書くかどうかだが、市民が声をあげても実現せず、市議会議員が声をあげれば実現するというのはいかななものか。
- (44) 民主主義を考えると、住民の意思が反映されてしかるべきだと思う。住民と話をし、何が課題で、どうすれば解決するのかを一緒に考えれば、協力してくれる住民と協働で事業を進めることができる。
- (45) 実現可能性がなければ、話を持っていかないが、実現可能性があれば協働でということになる。しかし、地元も役員が1年交代でしんどいことをせずにとなれば、協働のテーブルにすらのらない。
- (46) 【部会長意見】 行政がなぜできないのかを地元できっちり説明して、どのように地元が協力すれば実現可能なのかを一緒に考えていくことが協働だと思う。
- (47) 都市計画道路の整備は進まず、地元が改修を要望する生活道路の予算は凍結して、何のための都市計画か。
- (48) 【部会長意見】 都市計画も見直しが始まっており、実現できないものは都市計画から外して、既存道路の拡幅など代替案を模索している。
他市の事例だが、村の中の道路で市に要望しても拡幅が進まないと相談されたことがある。私は、村の屋敷の敷地をみんなが提供すれば、すぐに拡幅されるとアドバイスしたが、住民が協力しない状況を市の責任にすり替えていることに気付いてもらう必要があるし、行政もどのようにすれば実現するのか説明する必要がある。しかし、それを言えない状況をつくりあげてしまっている。そこをフランクに話せる状況をつくるのが協働の姿勢だと思う。
- (49) 行政がそのあたりを打開してもらわないと、前進はないと思う。
- (50) 民主主義とは何かの原点の話ではないか。行政より民の方が上だと考える人が多いが、役割分担をしているのだから、対等な関係で本音で話し合えば、もっと解決できることがあると思う。お互いの立場をもっと理解し合うことが協働を進める上で必要だ。
- (51) お祭りを実施するために校庭を使わせてほしいと校長にお願いしても、教育委員会に判断を仰いで、結局断られる。何か突破するアイデアはないものか。
- (52) 【部会長意見】 行政は前例をつくと誰にでも貸さなければならなくなるので、前例をつくりたがらない。しかし、他市の事例だが、イベントを実施するのに河川敷を

貸してもらえる団体とそうでない団体とを分けて運用している事例がある。貸してもらえる団体は、月に1回の河川敷の清掃に参加している団体で、一定のハードルを設けることでお互いにメリットがある状況をつくりあげることができる。

このように市民も汗をかくような提案をすれば、行政にも動いてもらいやすくなる。

私が常々お願いしていることは、各地域にある小学校を活動の場として提供してほしいということだ。市民が活動の場に困っているときに、唯一しっかりと敷地と建物が確保されているのが小学校で、小学校が活動の場を提供してくれれば、地域の活動はもっと活発になる。地域もただで貸してもらうのではなく、小学校にメリットを感じてもらえるような活動を展開して、お互いにメリットがある関係をつくっていかねばと思う。

- (53) 政策と施策では地域に根差した小学校とあるが、事業になれば地域が使用できないことが多く、政策、施策と事業がマッチしていない。

指定管理でも備品は指定管理料での購入を禁止し、必要な備品は市で購入して提供するということになった。誰もが購入費用が高つくと思っている。アウトソーシングで指定管理しているのに、備品購入は逆行している。政策、施策と事業が一貫していない。

- (54) 【部会長意見】行政の方々が協働の場面で言うてはいけないことの1つが、なぜできないのかの問いに、上司が言っていますからという回答である。私はやりたいのですが、上司が止めているというのは、責任を回避したいだけの回答で、私からいわせれば市で協議すればいいだけの話である。

あと、できませんで終わらせるなということで、できないならできないでよいが、どうすればできるようになるのかをアドバイスするべきだと思う。そういう関係のつくり方はマニュアルで書けると思う。

マニュアルをきっかけとして仕組みを整備しないといけないと思うのが、現場の職員が判断できる裁量を持てるかどうかである。協働の現場にいる職員が判断できる裁量を持っていないと、決定が遅れて協働がうまく回らない。

- (55) 【事務局】備品購入についても市全体で決まったルールなので、担当課、担当者は従わざるを得ない。また、協働で事業を始めても熱意のある市民が関わってくださっている間はよいが、役員の交代などでその人がいなくなると、行政が仕事を引き取らざるを得なくなるので、職員の負担が大きくなる。対等の原則で同じようにやっていきましょうといっても、その辺りが職員が協働に二の足を踏む原因だとアンケートから感じた。

- (56) 民主主義には2つの意味があって、政治体制のことと、運営のことがある。政治体制のことが国民主権であることは憲法にも定められているが、実際の運営では国民が主権者だからといって行政に上から目線で話をしても、何もうまくいかない。対等の立場で協働を進めていかなければならない。

- (57) 上から目線で無理をいう市民に対しては、行政も対応できないときっぱり態度に示してもよいと思うし、市民の意識も変えていく必要がある。

- (58) 行政は苦情が出れば、その対応を最優先するので、協働で進めている事業も苦情により停滞する。
- (59) 苦情を言うのは市民の権利だと思っている市民もいる。
- (60) 【部会長意見】私が都市計画のことから協働に携わるようになったのも、市民の意見でいいながら、市民の意見は様々で、これを1つにしなければ物事が進まないの
で、地域の中で話し合ってもらわなければならないことに気付いて、今に至った。
再開発事業や道路事業でも、行政の説明に対して反対する市民が存在し、行政対市民という構図になるが、推進派の市民もいるはずで、そのような人たちは自分が声を出さなくても行政が推進してくれるので、黙っていた方が得ということになる。行政職員は説明の際に反対の声ばかりが出るようであれば、事業をやめる考えを示してみると、推進派が声を上げてくれるようになるので、そうなれば賛成派と反対派と市民の間で話し合ってもらえばよい。しかし、行政職員はやめると言えないので状況を打開できない。
- (61) 住んでいるまちは街路樹の紅葉がきれいなまちだが、落ち葉がひどいので行政に対し街路樹を切るように要望する住民がいて、行政も要望に応じて街路樹を切っていた。しかし、自治会として憲章を定め、環境整備、緑化を掲げ、街路樹は紅葉を楽しむこととし、落ち葉が邪魔であれば自治会として清掃することとした。そのようなルールを定めて仕組みをつくっているが、行政から街路樹を切れと言う要望が寄せられたという連絡があった。行政に対しては、紅葉が終わる一週間後に例年通り街路樹を切ってもらうように自治会として伝え、清掃は自治会が実施するので、これ以上何かあれば自治会に申し出るよう要望者に伝えてもらうようにした。苦情は住民団体が受けることでクッションになるので、そのほうがうまくいく。行政は住民一人ひとりの要望を聴いても、住民の総意がどこにあるのか分からないので調整ができない。調整ができるのはたぶんまちづくり協議会や自治会なのだろう。
- (62) 市民側の問題で、まちづくり協議会や自治会の役割を知らずに、何でも行政に要望すればいいと考えている。そもそも緑の多い地区に移り住んでおいて、枝が、落ち葉がというほうがおかしい。行政だとそうはいえないが、住民同士ならそんな話もできる。
- (63) これから必要になるのは住民自治で、何でも行政がやるというような考え方をしないようにしないといけない。
- (64) 地域によっては、あの道路は自分たちが土地を出し合っただと、誇りにしているようなところもある。
- (65) 昔の村はそのような調整機能を持っていた。
- (66) 【部会長意見】大阪市内でも戦前の区画整理はそうだった。戦後に行政がいろいろやるようになった。そんな歴史的な経緯もどこかに書いてもよいのかもしれない。
- (67) 財産区やだんじりなどについても理解をしていかないと、行事への理解も得にくくなってしまう。
- (68) ニュータウンでは、薄い付き合いを望んで移り住んだ人たちもいるので、昔ながら

のコミュニティを形成しようとしても無理がある。薄い付き合いを望んでいる人たちが存在することを前提として、それでもよりよいまちづくりができるように仕組みを考えていかなければならない。逆に昔ながらのコミュニティの人たちにニュータウンのような活動をしろといっても無理がある。同じ祭りでも、ニュータウンと昔ながらのコミュニティでは意味合いが違う。

- (69) 問題として、宝塚市で宝塚の歴史を継承していけるのか。まだ詳しい職員が再任用で残っているからよいが、今後どうなるのか。
- (70) 【部会長意見】本当はそこまで理解していないと、協働は進まないのかもしれない。
- (71) マニュアルを作成するうえにおいて、新旧のコミュニティでやり方が違うようなことは行政として許容できるのか。
- (72) 【事務局】行政は今まで公平、公正が大前提だったが、市民自治ということであれば、地域予算を導入している市町村もあるので、差が生ずるのは当然だと思う。
- (73) 【部会長意見】それぞれの地域が話し合ってもらえばよいことだと思う。
- (74) 原則は全市的に定めるにしても、それぞれの地域でニーズが違うので、事業レベルでも濃淡が出てきて当然だと思う。
- (75) 【部会長意見】事業の内容まで同じにするようなマニュアルではなく、仕組み、手続きを同じにして協働を進めてもらうためのマニュアルとすればよい。
- (76) 協働は手段であって、目的ではないので、事業の内容まで同じにする必要はない。
- (77) 【部会長意見】そろそろ時間であるので、今後どのように進めていくかだが、飯室委員の枠組みをベースにするとして、具体的な作業をどのようにしていくか。
- (78) 【事務局】作業を手伝っていただける委員を募集していただきたい。
- (79) 【部会長意見】作業ワーキングを手伝ってもよいという委員は、後で事務局に声をかけてほしい。
- (80) 大筋は飯室委員作成の案でよいとして、盛り込む内容を各委員が検討して次回までに事務局に提出して、ワーキンググループで整理してもらってはどうか。
- (81) メンバー募集というより、どんな内容を盛り込むのかみなさんのアイデアを集めるということで。
- (82) 【部会長意見】内容を集めてどれを盛り込むかの検討と、具体的に事務局と文書化する作業と二段階になると思う。
- (83) 情報収集と分析は、事務局で手が回らないのであれば、ある程度手助けする委員がいたほうがよい。
- (84) 【部会長意見】事業者と市民の協働に関する情報がなかなかないので、提供いただければありがたい。どうも事業者と市民の協働がなかなかできていない。

4 宝塚市協働の指針職員研修会について

ワークショップ形式の研修と講義形式の研修の実施について承認いただいた。

講義形式の研修（3月24日実施）で事例発表を行う委員を募集し、次回の部会で自薦、他薦いただくこととなった。

5 閉会